

Hölder の不等式

$p, q > 1$  は  $\frac{1}{p} + \frac{1}{q} = 1$  を満たすとする。また、それぞれ  $p$  乗、 $q$  乗絶対可積分関数  $f(x), g(x)$  と  $\alpha, \beta$  ( $-\infty \leq \alpha < \beta \leq \infty$ ) に対して、 $f(x)g(x)$  も絶対可積分で

$$\int_{\alpha}^{\beta} |f(x)g(x)| dx \leq \left( \int_{\alpha}^{\beta} |f(x)|^p dx \right)^{\frac{1}{p}} \left( \int_{\alpha}^{\beta} |g(x)|^q dx \right)^{\frac{1}{q}}$$

が成り立つ。

**証明.** まずは、Young の不等式を示す。

Young の不等式

$p, q > 1$  は  $\frac{1}{p} + \frac{1}{q} = 1$  を満たすとする。このとき  $a, b \geq 0$  に対して

$$ab \leq \frac{a^p}{p} + \frac{b^q}{q}$$

が成り立つ。

**証明.**  $ab = 0$  のときは明らかなので  $ab > 0$  の場合を示す。  $h(t) = \frac{t^p}{p} - t + \frac{1}{q}$  ( $t \geq 0$ ) とする。このとき  $h'(t) = t^{p-1} - 1$  であるから、 $h(t)$  は  $t = 1$  で最小値  $h(1) = \frac{1}{p} + \frac{1}{q} - 1 = 0$  となる。あとは  $a, b > 0$  に対して  $t = ab^{-\frac{q}{p}} (> 0)$  とおいて整理すると Young の不等式が示される。 ■

示す不等式の右辺が 0 のときは  $f(x), g(x)$  の少なくとも一方は関数として 0 なので不等式は成り立つ。よって右辺の積分値の積が 0 でない場合を示す。ここで、 $A = \left( \int_{\alpha}^{\beta} |f(x)|^p dx \right)^{\frac{1}{p}}$ 、 $B = \left( \int_{\alpha}^{\beta} |g(x)|^q dx \right)^{\frac{1}{q}}$  とし、Young の不等式の  $a, b$  に  $a = \frac{|f(x)|}{A}$ 、 $b = \frac{|g(x)|}{B}$  を代入して積分をすると

$$\begin{aligned} \frac{|f(x)|}{A} \cdot \frac{|g(x)|}{B} &\leq \frac{1}{p} \frac{|f(x)|^p}{A^p} + \frac{1}{q} \frac{|g(x)|^q}{B^q} \\ \int_{\alpha}^{\beta} \frac{|f(x)|}{A} \cdot \frac{|g(x)|}{B} dx &\leq \int_{\alpha}^{\beta} \left( \frac{1}{p} \frac{|f(x)|^p}{A^p} + \frac{1}{q} \frac{|g(x)|^q}{B^q} \right) dx \\ &= \frac{1}{p} + \frac{1}{q} \\ &= 1 \end{aligned}$$

となり、整理すると

$$\begin{aligned} \int_{\alpha}^{\beta} |f(x)g(x)| dx &\leq AB \\ &= \left( \int_{\alpha}^{\beta} |f(x)|^p dx \right)^{\frac{1}{p}} \left( \int_{\alpha}^{\beta} |g(x)|^q dx \right)^{\frac{1}{q}} \end{aligned}$$

となり、Hölder の不等式が示された。 ■